

瀬戸では10世紀後半に陶器づくりが、19世紀初頭から磁器づくりが始まったことから、陶器づくりを元々の仕事という意味で「本業」、磁器づくりを新しく始めた仕事という意味で「新製」と呼んでいます。「本業タイル」というのは、陶器製のタイルを指します。

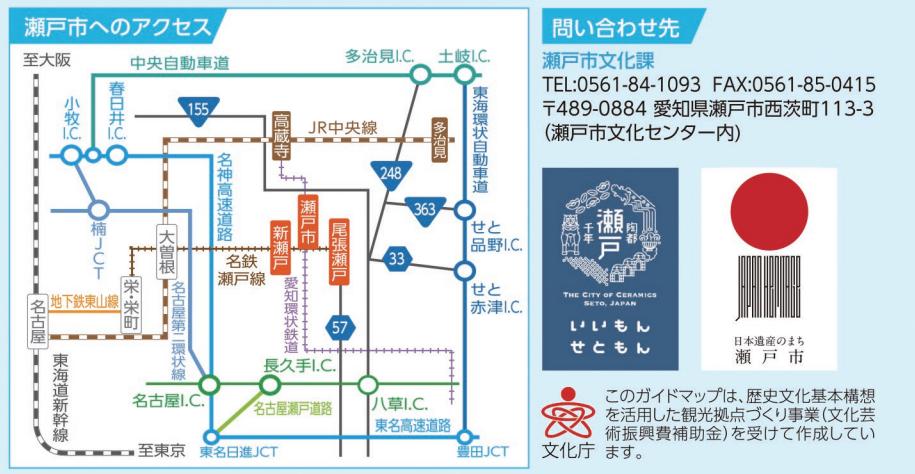
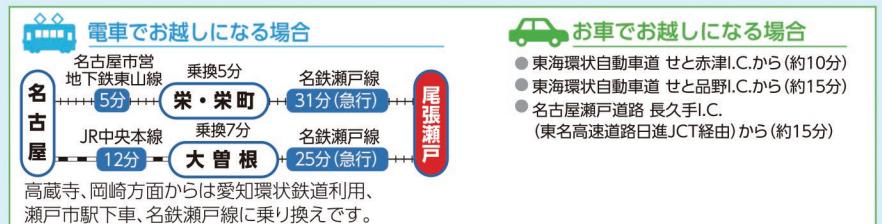
幕末以降、外国人居留地の建物の建築などから、タイルの需要が高まり、それにいち早く対応したのが瀬戸でした。新技術を導入して新しいデザインのタイルを生産するようになり、それにより「本業タイル」が日本の近代量産タイル第一号と呼ばれるようになりました。

1000年以上の歴史を誇る せとものまち 陶都・瀬戸

愛知県瀬戸市は、名古屋市の北東約20kmに位置し、周囲を標高100～300mの小高い山々に囲まれ、気候も温暖なまちです。

良質で豊富な陶土に恵まれ、瀬戸市で焼かれるやきものは、“せともの”というやきものの代名詞として日本のみならず、世界の人々に知られるようになりました。先人たちは新しい技術や文化を柔軟に取り入れ、「せとものまち」を発展させてきました。

先人たちより引き継がれてきた「歴史」「伝統」「文化」、そして豊かな「自然」が、今もなお、瀬戸の暮らしに息づいています。



日本遺産のまち瀬戸市 瀬戸を知る テーマ別ガイド④

洞・窯垣の小径コース

A simple line drawing of a city skyline. It features a tall, rectangular building with six windows arranged in two columns of three. To its left is a smaller, single-story house with a gabled roof and four square windows. To its right is another smaller, single-story house with a similar gabled roof and four square windows.

